

生物多様性はコミュニケーションの世界

地域の活動と国際条約の良い関係



Hakuhodo DY
media partners



CEPA
JAPAN

もっと身近に、生物多様性。

川廷昌弘
2012/2/9

ティッピング・ポイント

生態系からの恵み(生態系サービス)に、私たちの豊かな暮らしは支えられています

Our life of affluence is supported by the benefits derived from ecosystem (ecosystem services).

供給サービス Supplying Service

食糧、水、繊維、燃料、薬品、遺伝子資源など
Food, water, fiber, fuel and gene resources

文化的サービス Cultural Service

精神、芸術などの文化への影響、精神的・美的的価値の付与など
Spiritual influence on the culture such as the giving spiritual and religious value

調整サービス Adjusting Service

気候、洪水、水質などの調整、花鳥の媒介、病源や有害生物の制御など
Climate, flood, water regulation, pollination, pest control of plague and pest

基盤サービス Infrastructure Service

土壌の形成、光合成、栄養循環など
Soil formation, photosynthesis, circulation of nutrients etc.

人類に求められる 3つのアクション

3 desired actions for all mankind

1 危機的な現状認識の共有

Sharing recognition of current critical situation

生物多様性からの恵みを、今後も享受することができなくなる。これは、10年間の議論にかかって、私たちの認識を共有する。

It depends on sharing recognition how we will take action in the next decade. We can have the benefits derived from biodiversity in the future.

2 意欲的かつ現実的な目標や枠組みの設定

Setting ambitious and realistic target and framework

「転換点」を越えないよう人々を動員していくための意思を醸成し、目標や枠組みを設定する。

We combine determination of people in order to take harmony with nature to prevent us from exceeding the tipping point, and we set target and framework in the meantime.

3 目標の達成のための行動

Take actions to achieve the target

多様な主体が、目標達成のために効果的な行動を遂行し合う必要がある。

A variety of stakeholders must rapidly take efficient actions to achieve the target.

Tipping Point (転換点)

生物多様性は「転換点」を越えると、劇的に減少が生じ、回復が不可能になります。今後10～20年の生物多様性の保全と回復は押けた状態が、「転換点」を越えずに進むかどうかの鍵になります。(IPBES)

If it exceeds a "tipping point", we will enter a fast loss and biodiversity will become unrecoverable condition. Future efforts within the next decade or two toward conservation and recovery of biodiversity will be a key to prevent us from exceeding the tipping point. (IPBES)



転換点を越える前に、アクションを!

Take action now before we reach a "tipping point".



ロシア領東部の森林に生息するアムールトラ (Panthera tigris altaica) は、その生息域はわずか400個と推定されている。
It is estimated that only 400 Siberian tigers (Panthera Tigris Altaica) are alive in the easternmost forest of Russia.

Michael Hutchings and Geographic Image Collection



日本黒鷺(鶴)の今 (Nipponia nippon), 今日本黒鷺(鶴)の今 (Nipponia nippon), 今



世界の森林は毎年約5.3億立方メートルの木材を消費している。
It is known that around 5.3 billion cubic meters of forest is still disappearing every year in the world.
Chris Johnson/Reuters and Geographic Image Collection

珊瑚礁の上昇がサンゴの白化を引起こす。20世紀末の数十年間で世界のサンゴ礁の約20%が失われたと報告されている。
Coral has been bleached because of rising sea temperature. About 20% of the world's coral reefs have been disappeared in several decades in the end of the 20th century.



生物多様性の損失は私たちの暮らしを脅かします。
Biodiversity loss threatens our life.

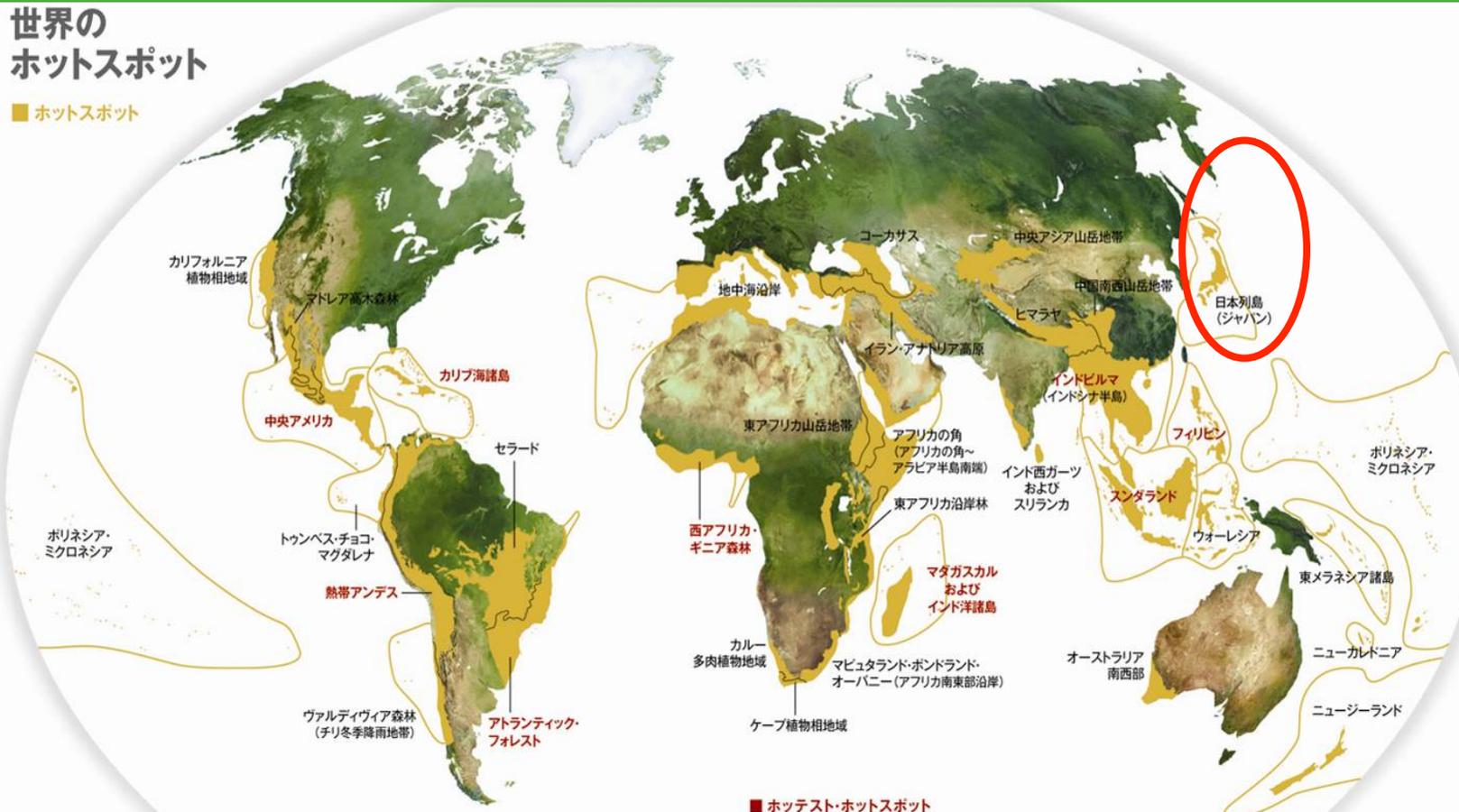


生物多様性ホットスポット

生物多様性が高いにも関わらず、緊急かつ戦略的に保全すべき破壊の危機に瀕している世界34地域。地球の地表面積のわずか2.3%ながら、最も絶滅が危惧されている哺乳類、鳥類、両生類の75%が生息。

世界のホットスポット

■ ホットスポット



■ ホットテスト・ホットスポット

地図中、地名を赤字で示した、マダガスカルおよびインド洋諸島、熱帯アンデス、アトランティック・フォレスト、スンダランド、中央アメリカ、インドビルマ、フィリピン、西アフリカ・ギニア森林、カリブ海諸島の9カ所はホットテスト・ホットスポット (ホットスポットの中でも特に保護・保全の緊急を要する地域) とされている。

ナショナル・ジオグラフィック日本版「失われゆく生物多様性」より

先進国で唯一、国土すべてがホットスポットに指定されている日本列島。

海と田んぼからの グリーン復興宣言

東北大学を拠点に
生物多様性を踏まえた復興
を提案するプロジェクト

生態系からの恵みを活かして

人・海・田んぼそして森のつながりから復興を考える

2011年3月11日に発生した地震と津波により、私たちの住む東北地方は、甚大な被害を受けました。今やこの地域の社会と経済の復興は、国際的・日本全体の関心事になっています。

これまで「森は海の恋人」と呼ばれてきたように、海の恵みは、山、森、川、そして田んぼの営みのつながりにも、支えられてきました。今回の被災地の多くは、こうした生態系の恵み（生態系サービス）を最大限に利用する生活をしてきた地域です。

今、できるだけ早い復興は共通した願いですが、環境への影響評価を行なうことなく、早急に山や森を削り、川や海、そして田んぼの生物多様性や生態系への配慮のない造成は、生態系サービスを低下させて、被災地以外にも多くの二次的な災害を生み出しかねません。

私たちは、この地の農林水産業が享受すべき将来の生態系からの恵みを見据え、海や田んぼの生態系の豊かさや、生物多様性を育む「グリーン復興」を行うことで、農林水産業と共に生きてきた地域が、より着実に、力強く復興すると思えます。

そして、地域の豊かさや強さにつながる生態系の回復力を助け、自然と社会が共生した復興を、ひとりひとりの市民として、その計画から積極的に関わり、一緒に支えていくことを宣言いたします。

2011年5月22日

海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト

東北大学 生態適応グローバル COE
NPO法人 田んぼ
NPO法人 森は海の恋人
NPO法人 環境会議所東北
NPO法人 サステナブル・ソリューションズ
～小さな渦を育てる社～

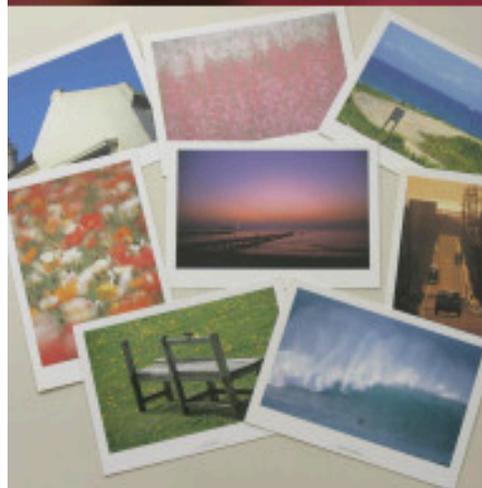
賛同団体(賛同企業・NGO・ネットワーク募集中)

地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)、一般財団法人 mufef(music design foundation)、国連大学サステイナビリティと平和研究所(UNU-ISP)、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)、特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)、Think the Earthプロジェクト、特定非営利活動法人アースデイ・エブリデイ、一般社団法人 CEPA ジャパン、JBIB有志によるグリーン復興に向けたタスクフォース、日経BP環境経営フォーラム 有志によるタスクフォース

南房総で写真に目覚めました。

南房総シリーズ

1987年、僕は南房総で本格的に写真を撮り始め、様々な形で残していきました。



「カード&ポスター」へ。



「NEPTUNE」へ。



「週末の楽園」へ。



「Boso-FLOWERS」へ。

「生物多様性基本法」前文より

人類は生物の多様性のもたらす恵沢を享受することにより生存しており、生物の多様性は人類の存続の基盤となっている。

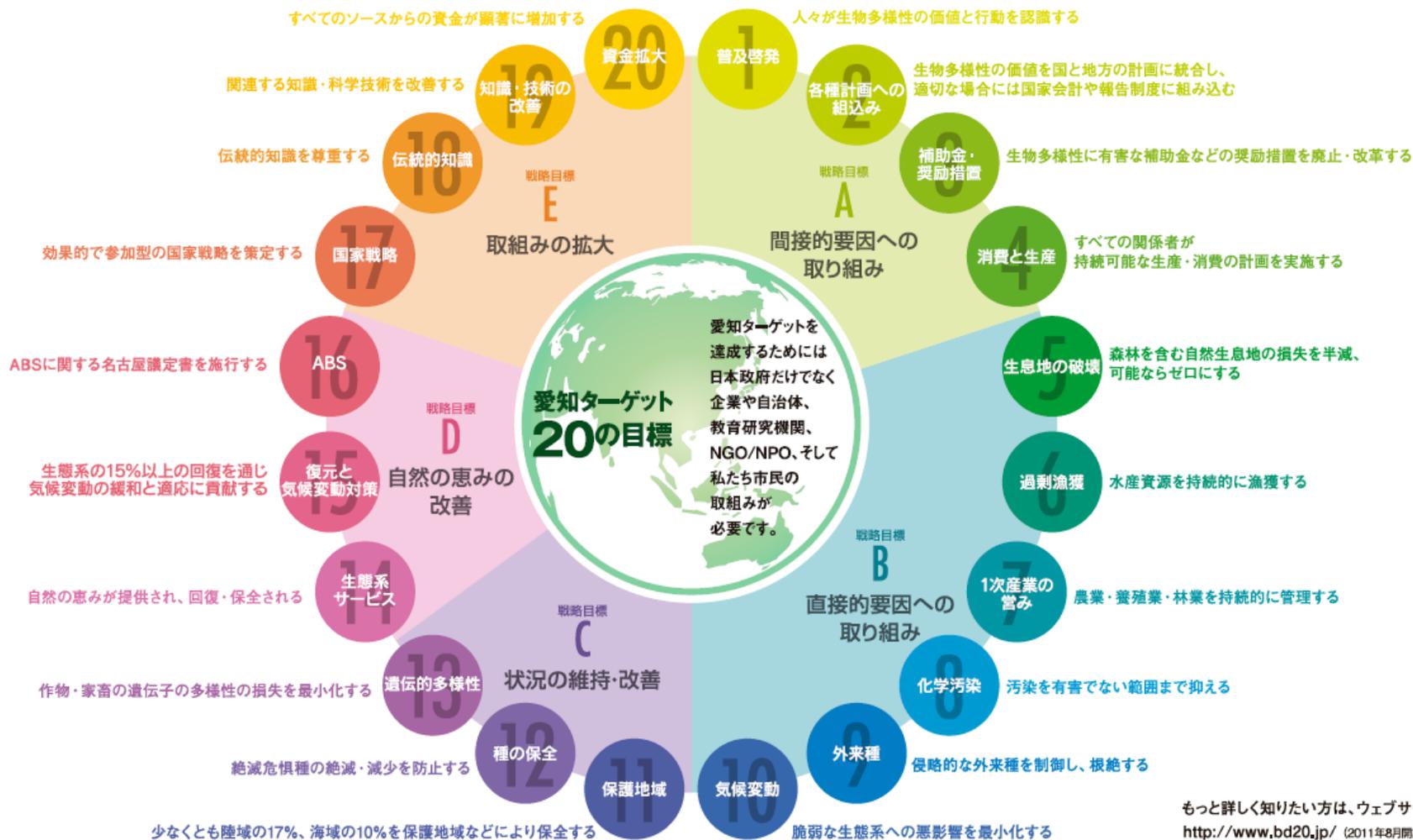
また生物の多様性は、地域における固有の財産として地域独自の文化の多様性も支えている。

**「生物多様性」とは、
社会、経済、文化の基盤であり、**

**「自然との共生」をしてきた
日本人の精神の基盤とも言える。**

地球との最後の約束にすべき「愛知目標」

2050年までに自然と共生する社会の創造を目指し、**ながら、2020年までに生物多様性の意味と価値を**
全ての人が理解し、**社会の常識**となり、**生物多様性**の損失を止め、回復力のある生態系を確保する。



もっと詳しく知りたい方は、ウェブサイトへ
<http://www.bd20.jp/> (2011年8月開設予定)

日本のNGOが提案「国連生物多様性の10年」

生物多様性条約市民ネットワークが、「愛知目標」を地球を守る最後の約束にするため、国連の枠組みで推進するよう提案。

それが日本政府案として
COP10で勧告決議、
昨年12月に国連総会で採択。



生物多様性条約事務局による戦略



自然と共に生きる

Home

IYB

Goals

Events

Learn

Media

Participate

行動の変革

各国のフォーカルポイント、国連機関及びプログラム
その他の主体に、下記のことを行うよう奨励:

- 生物多様性に関する普及啓発
- 戦略計画を実現するための行動を実行に移す
- 生物多様性条約の実施のためのネットワークを強化する
- 各主体の行動の連携を強化する
- 活動をより主流化する

生物多様性条約事務局による戦略



国連 生物多様性の10年

自然と共に生きる

Home

IYB

Goals

Events

Learn

Media

Participate

生物多様性に対する認識の変化をモニタリング

- 一般の人の認識・考え方に関する、「指標」および「ベースラインとなる情報」を確立する
- リージョナル、サブリージョナル、および国レベルの調査が行えるような、地球規模の枠組みを開発する
 - 世論調査実施機関
 - マーケティング会社
 - 政府
 - 地域機関とのパートナーシップを確立する
- 能力開発イニシアチブに関する既存の専門知識を活用する

「生物多様性条約 第十三条」 これがCEPAの条文

第十三条 公衆のための教育及び啓発

(※日本政府翻訳をさらに意訳)

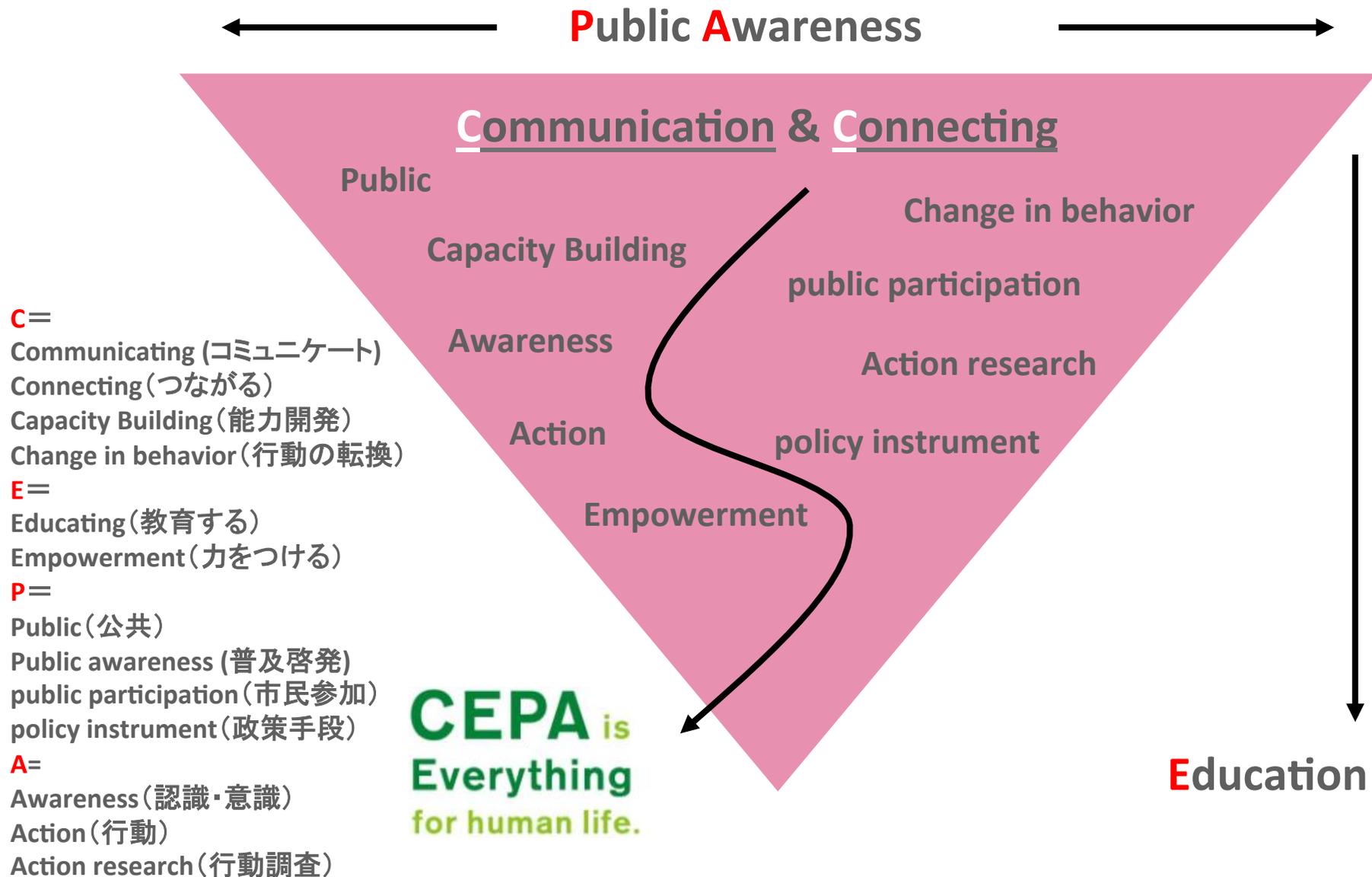
締約国は、次のことを行う。

(a)生物多様性の保全の重要性や、保全に必要な行動を理解するため、さまざまな伝達手段による普及啓発、そして教育事業に取り入れることを推進する。

(b)生物多様性の保全、持続可能な利用に関する教育や普及啓発事業の計画で、必要に応じて他国や国際機関と連携する。

CEPAとは、様々な活動を「つなぐ」キーワード。

作成: 中野民夫、川延昌弘



一般社団法人CEPAジャパン



もっと身近に、
生物多様性。

CEPA
JAPAN

- > ABOUT CEPA JAPAN
- > BIODIVERSITY2020
- > ALLIANCE/NETWORK
- > MEMBERSHIP
- > ARTICLE/REPORT
- > BIODIVERSITY MOVIE

WELCOME CEPA JAPAN

CEPAジャパンは、生物多様性をもっと身近に感じてもらうために、「広報・教育・普及啓発(CEPA)」に関する情報共有・そして推進の場として設立されました。

本来私たちの身近にある、生物多様性。そこにみんなが気付いた時、地球の未来は、もっと豊かで明るいものになると信じています。

CEPA INFORMATION

2011/10/04
> 板橋太郎のセバリストへもっと身近に、生物多様性。～第3回

2011/10/04
> 【緊急1】 リオ+20に向けたインプット修正案への意見

2011/10/01
> リオ+20に向けたインプット案への緊急提言

CEPA JAPAN
cepajapan

cepajapan これもCEPAですね！
RT @CNUN08 @hd_20maru との
合同企画！ COP10から1年！
Twitter 特別企画「つなげる・生
物多様性 COP10から未来へ」
あれから一年。つぶやいてつな
がらましょよ！ 詳しくはコチラ
<http://t.co/LM4esD42>

Join the conversation

Copyright(C)一般社団法人CEPAジャパン 2011

| BLOG | ニュース&イベント | サイトマップ | アクセス | 個人情報保護方針 | お問い合わせ |

環境コミュニケーションの
国内スペシャリストが集う組織を設立

Green TV Japan
Think the Earth
地球サミット2012 Japan
Earthday Everyday

自然観察指導員
環境教育指導員
自然学校指導者
動物園、水族館学芸員
有識者、学識経験者

国際自然保護連合
教育コミュニケーション委員会
JAPAN準備事務局



大切なのは「国際条約と暮らしをつなぐ」

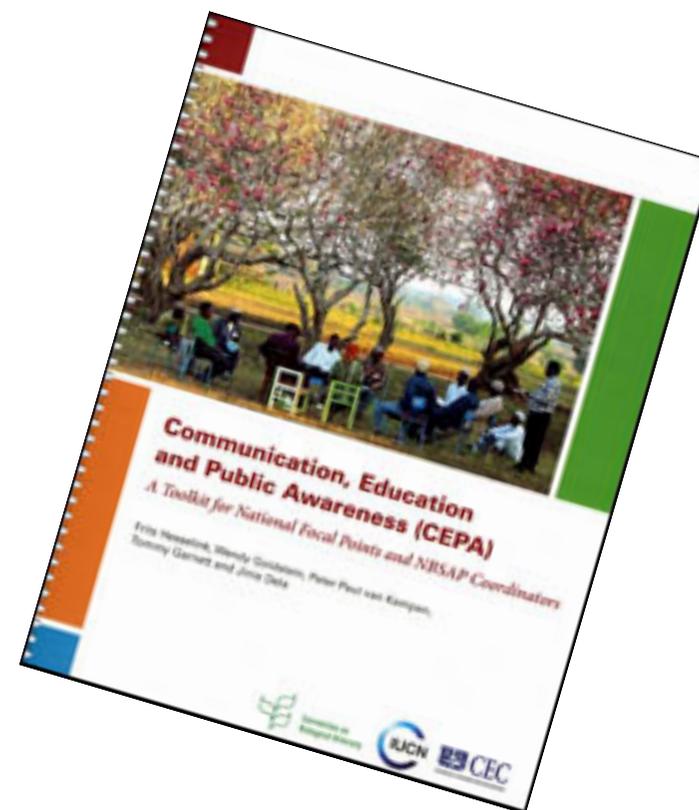
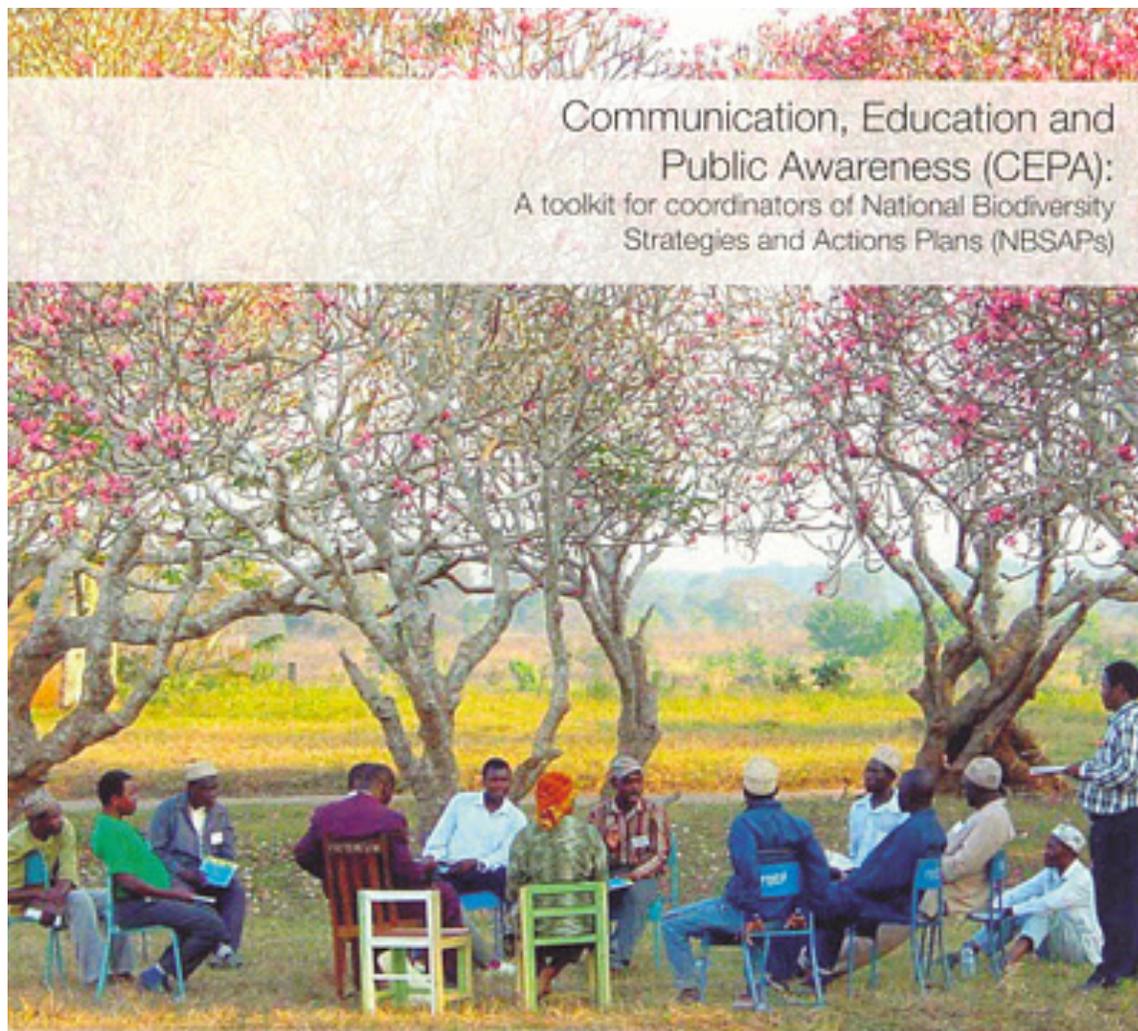
目標はみんなの行動をかえること

**各地の郷土愛による活動が
生物多様性を守り
国際条約とつながる事を伝える**

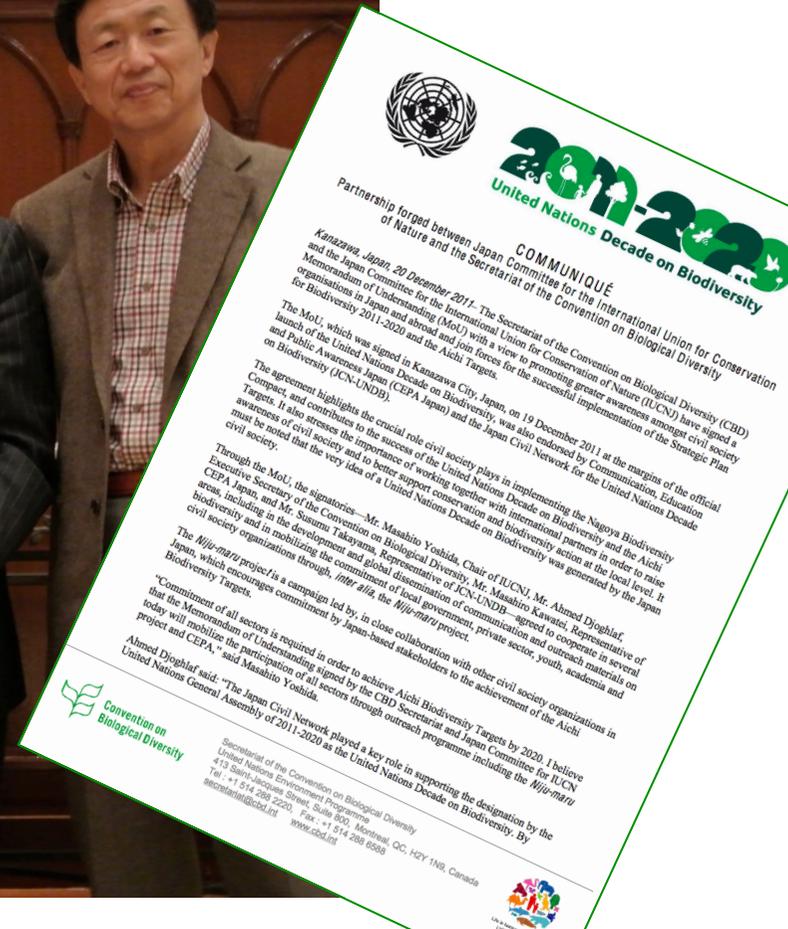
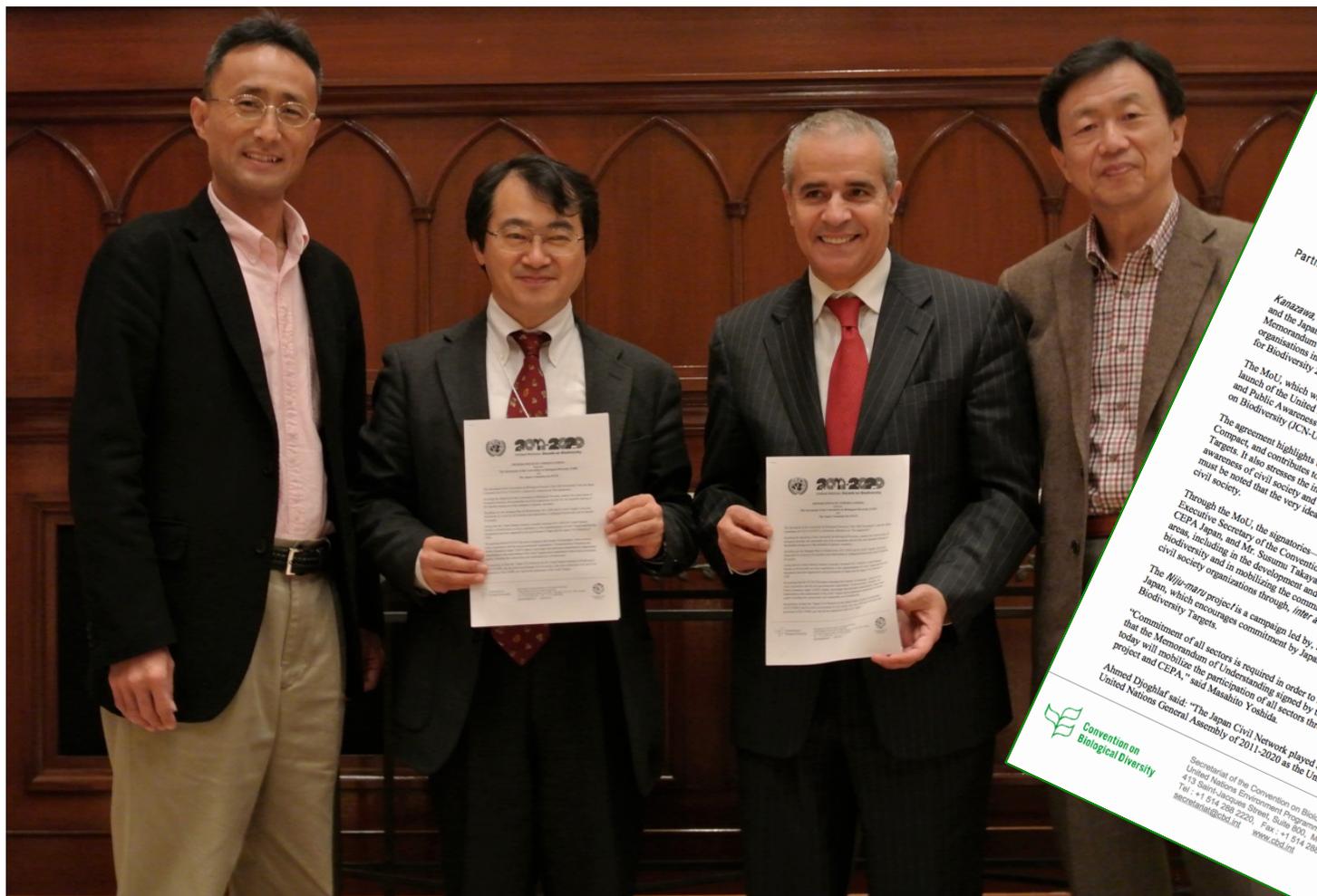
**「生物多様性」が生活で実感できるように
現代の「伝承者」となって未来を支えよう**

CEPAツールキット グローバルスタンダードをアレンジ

条約事務局が国家戦略策定者のために制作したコミュニケーション・テキスト
CEPAジャパンが300ページのテキストを日本語訳！
自治体、企業、NGOが生物多様性の普及事業や本業の取組みのため、
セミナーやワークショップの開催を検討中。

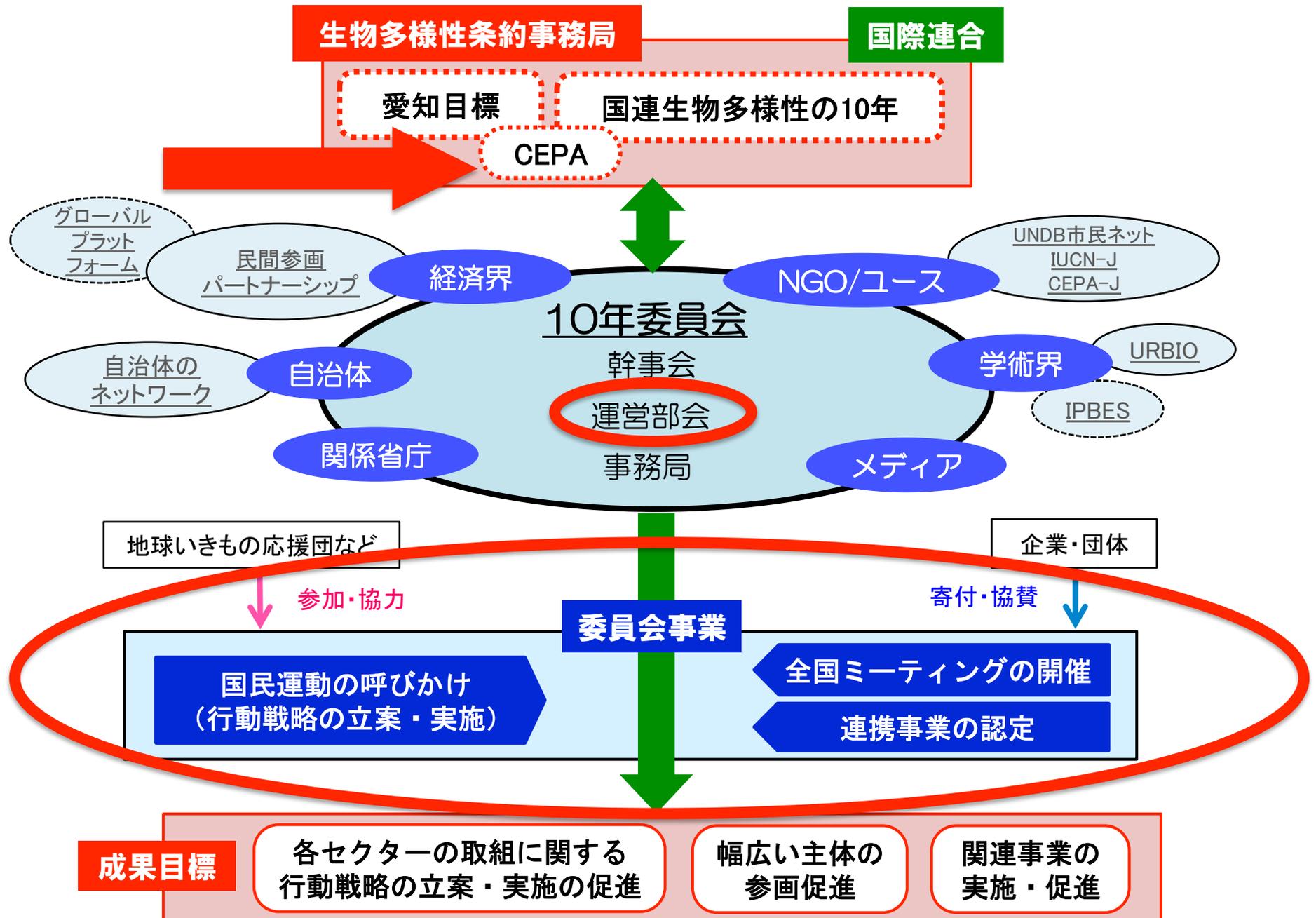


生物多様性条約事務局と協定に調印



愛知ターゲット達成に向けて、「国連生物多様性の10年」の活性化のため、国内だけでなく国際機関と連携を推進するため、生物多様性条約事務局と協定を交わした。

国連生物多様性の10年日本委員会



生物多様性を守るために、
私たちができること。

5 ACTIONS



5 actions to save biodiversity.

監修：矢原徹一九州大学教授

1



旬の食材や、自分が住んでいる
地域でとれたものを食べてみよう。

2



大人も子どもも、みんなで
楽しく自然を体験してみよう。

3



あなた自身が、
クリエイターになってみよう。

4



さまざまな活動に参加して、
「きずな」を再発見してみよう。

5



生物多様性保全に貢献している
商品を選んでみよう。



にじゅうまる
プロジェクト

for Life on Earth 2011 - 2020

IUCN-J

国際自然保護連合日本委員会

Supported by CEPAジャパン

- ・目標年である20年に、○（まる）という評価を手にしよう
- ・20の個別目標すべてで、○（まる）という評価を手にしよう
- ・愛知目標を目指して、現場で汗を流す人々に、
○ではなくて◎（にじゅうまる）をプレゼントしよう
- ・あなたの地球の未来に、にじゅうまるをプレゼント！

というメッセージを込めてつけられています。

環境省と国民運動となるプロジェクトを目指して、
自治体、企業、市民団体に呼びかけていきます。

グリーン・ウェイブ（5月22日は生物多様性の日）



ジョグラフ生物多様性条約事務局長と日本のコンセプトを共有
「暮らしから生物多様性を再認識」被災地や全国各地の活動をつなぐ

グリーン・ウェイブは世界で唯一共通のCEPAアクション

生物多様性と子どもの森キャンペーン実行委員会

森林に関するCEPA(広報、教育、普及啓発)活動のプラットフォーム

委員長

- 川廷 昌弘 (一般社団法人CEPAジャパン 代表)

委員 (五十音順)

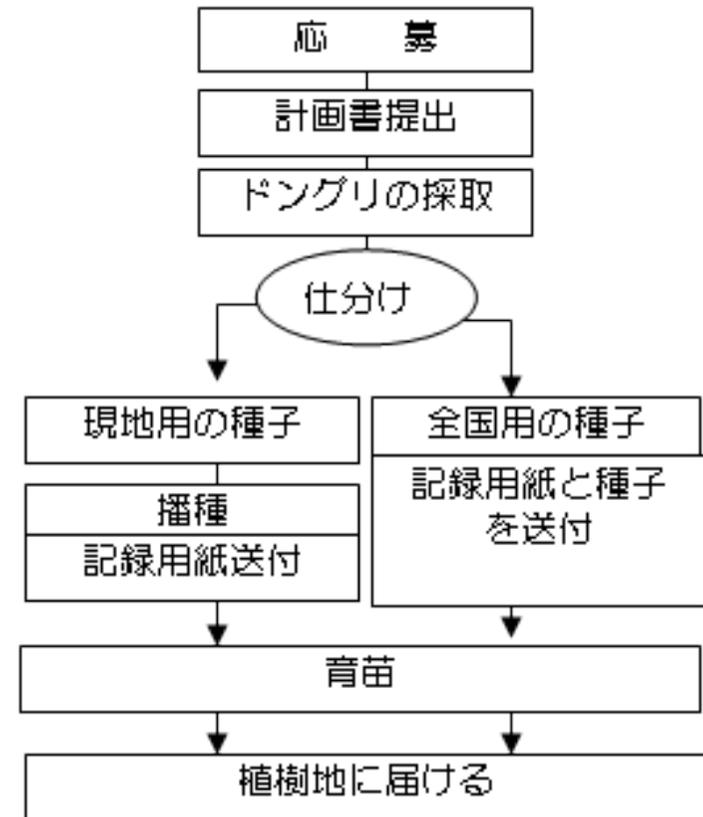
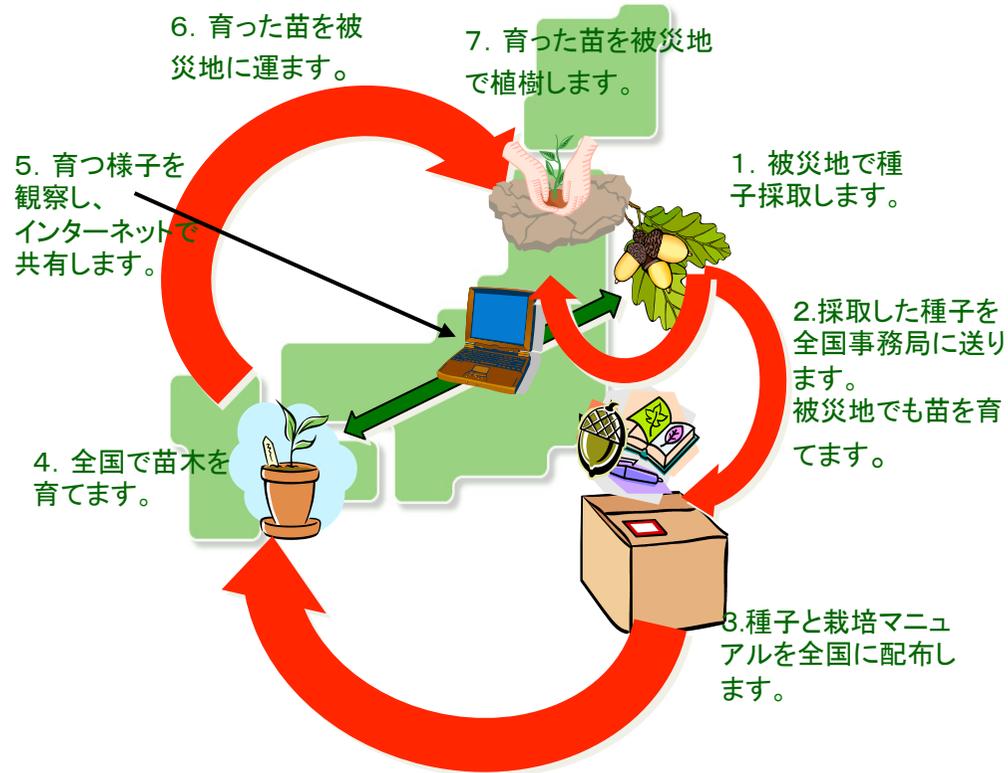
- 川村 研治 (財団法人日本環境協会 事業部長)
- 木俣 知大 (社団法人国土緑化推進機構 政策企画部)
- 京極 徹 (公益社団法人日本環境教育フォーラム 事業部長)
- 清水 英二 (特定非営利活動法人子どもの森づくり推進ネットワーク 代表理事)
- 高田 絵美 (財団法人オイスカ 国際協力部)
- 田邊 龍太 (財団法人日本生態系協会 教育研究センター長)
- 玉置 好孝 (社団法人全国森林レクリエーション協会 森林教育部長)
- 鳥海 正美 (全国森林インストラクター会 事務局長)



どんぐりプロジェクト (Project D)

樹木の苗が、被災地と全国の子どもたちをつなぎます。

概念図



年次計画

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
採取	→					
育苗	→					
植樹		→				
活用				→		



被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

～大災害の経験を確実に記録し、次の世代に引き継ぐために～

■被災の記録

変化したり失われることから、迅速に・確実に記録することが必要

植生や地形などの自然環境は、今後数年～数十年かけて変化し続ける

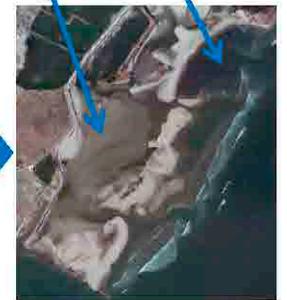
- 自然環境(植生、地形(干潟・砂浜)、藻場、動物の分布など)の変化状況の記録とモニタリング
- 津波石、被災に耐えた象徴的な自然物(松、杉)など
- 被災者の体験・知恵を伝える「生の声」
- 地震・津波の映像

■アーカイブとして整理し、多くの人が活用可能な状態に

これまでも自然環境保全基礎調査などで、自然環境を継続して把握



干潟と砂浜の消失



国指定仙台海浜鳥獣保護区(蒲生干潟)
→ 渡り鳥の重要な生息地

■継承するための学びの場

現場で伝える
経験者から伝える
→確実に継承

【学びの場づくり】

- 自然公園・歩道の看板
- 被害地域を見渡せる展望台
- ビジターセンター・展示 など

【学ぶための体制づくり】

- エコツーリズムのガイド育成
- ガイドプログラムの開発
- 学校等での防災教育



- 多くの人に、現場で理解していただき、国民全体で次に備える
- 地域の復興計画・防災計画への活用
- 地域振興(エコツーリズム、地元雇用の創出)
- 学術研究などの基礎資料として活用

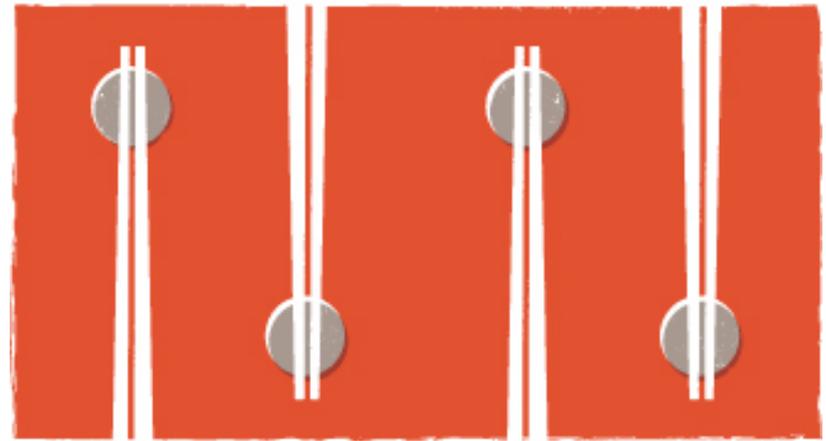
暮らしから考える「いただきますの日」プロジェクト

生物多様性の主流化を
「食」から考えよう！

2011年11月11日

お箸がたくさん並ぶイメージで
「いただきますの日」を設立
そして311,911、、、

「いただきます」は
食卓にあがる「いのち」それを育む「自然」
おいしい食べ物を提供し食事を作る「労働」や「知恵」
一緒に食卓を囲む「周りの人」に対する感謝の気持ち

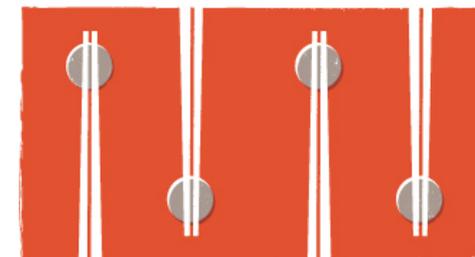


いただきますの日

いただきますの日普及推進委員会
共同通信社
Green TV Japan
ジース・ニュース
Think the Earth
CEPA ジャパン
日経BP環境経営フォーラム

「いただきますの日」×「弁当の日」= 食育

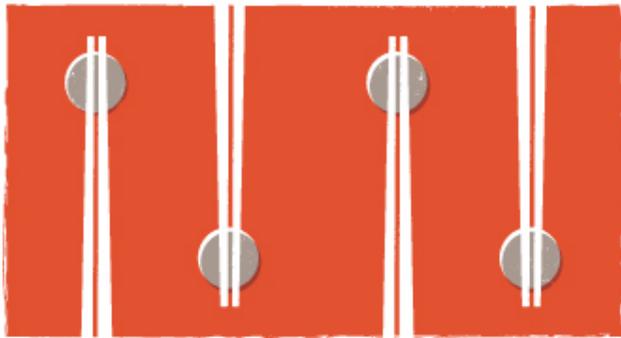
「弁当の日」竹下和男先生の講演会
「お箸作りのワークショップ」



いただきますの日



「いただきますの日」×「福幸米」= 社員食堂メニュー



いただきますの日



リオ+20へ日本の市民社会から生物多様性に関する「石川宣言」

- 1、COP10議長国として「愛知ターゲット」の達成に向けた推進
- 2、未曾有の災害からのグリーン復興のメッセージ
- 3、COP17の混迷により生物多様性の損失が進む懸念



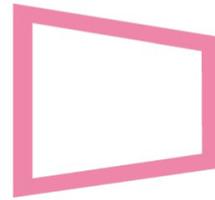
**「大地と海と空に生きもの賑わう地球」
生物多様性は、コミュニケーションの世界。**

**愛知ターゲットのゴールとは、
すべての人が生物多様性を理解し、
保全のために行動すること。**

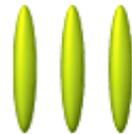
**そのための
「国連生物多様性の10年」は、
コミュニケーションの10年とも言える。**

**健全な企業であるために、
地球とのコミュニケーションを良好にして、
生活者とのコミュニケーションも良好にしよう。**

もっと身近に、
生物多様性。



CEPA
JAPAN



Hakuodo DY
media partners